

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



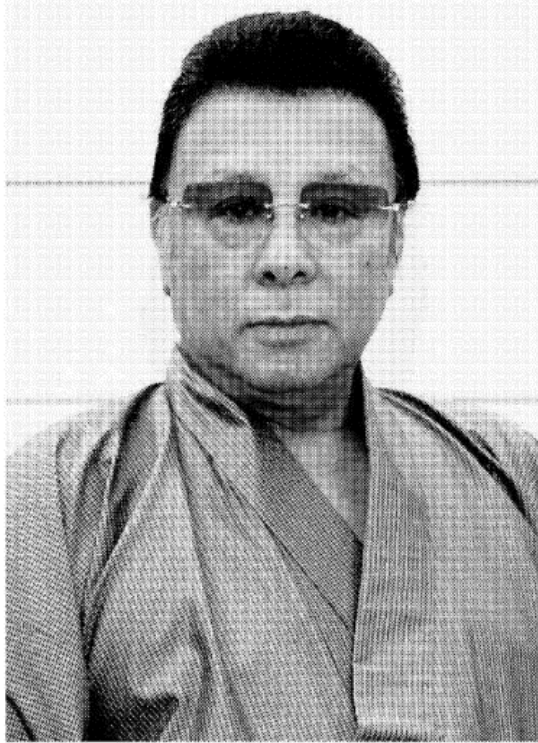
死期が迫っているとわかったとき、どこで人生の最期を迎えたいですか？ 昨年、日本財団が67歳〜81歳の方を対象に全国意識調査を実施しました。

その結果、1位は「自宅」で58・8%、2位は「医療施設」で33・9%。一方、絶対に避けたい場所としては、1位が「子どもの家」で42・2%、2位が「介護施設」で34・4%とのこと。

しかし、もっと自由に答えていいのであれば、皆さんの回答は百人百様のはず。旅行先で死にたい、故郷に帰って死にたいという人もいれば、愛人の家で死にたいと答える人もいるかもしれません。そしてこの人は、「舞台の上で死にたい」と生前、話しておられたそうです。

昭和・平成と大衆演劇を牽引し、梅沢富美男さん(71)の兄としても知られる俳優の梅沢武生さん

241 俳優 梅沢武生



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

が1月16日に都内の病院で亡くなられました。享年82。死因は肺炎との発表です。

16日は明治座で梅沢富美男劇団の特別公演中であつたことから、千種楽(せんしゅうらく)を迎えてからの正式発表になつたとい

ます。この舞台に武生さんも後見人として名を連ねていました。

ご縁あつて梅沢富美男さんにはお世話になつており、公演にも何度も足を運びました。数年前の大阪新歌舞伎座の公演には、普段あまりお芝居を観ることのできない、僕の患者さんたちとそのご家族を大勢引き連れて伺つたこともありました。

普段は無表情の認知症のおばあちゃんも、武生・富美男兄弟の妖艶な二人芝居に、みるみるいい表情になつていくのを見て、素晴ら

しい舞台の前に「医療は無力やなあ」と感じたものです。

ご兄弟二人の息はいつもピツタリで、子どもの頃から何千、何万と舞台に立つてきた人だけが持つ迫力に圧倒されました。

梅沢劇団は、剣劇のスター俳優として人気を博した梅沢清と少女歌舞伎出身の竹沢龍千代が結婚し、1939年に設立。

その翌年の40年、8人兄弟の長男として、武生さんは誕生しました(富美男さんは第7子です)。生まれてすぐに父の清は戦争へ行き、龍千代は武生を背負いながら、全国をドサ回りし、男衆不在のまま芝居を続けたといひます。

そんな母の教えは、何があつても舞台に穴を開けないこと。「死ぬなら舞台で死になさい」と兄弟は母に言われて育ちました。

武生さんは最期まで劇団を気にしていたそうで、魂は舞台で死んだも同じかと思受けました。母のもう一つの教えは、「顔で笑つて、心で泣いて」。

富美男さんは今日も笑顔で舞台上がっているのでしょう。

魂は舞台で死んだも同じ